

行政評価票

⑤補助金・交付金

予算事業名	中学校教育振興運営費	010712	作成部課	教育委員会 学校教育課
補助金名	部活動補助金		作成者(内線)	学事保健係長 森脇昭彦(77-22-467)

I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	Ⅱ	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	一般会計
中分類(施策)	Ⅱ-2	生きる力を育む学校教育の充実	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	Ⅱ-2-4	健やかな育ちを支える食育と体力づくりの推進	予算費目(項)	03	中学校費
個別計画			頁	予算費目(目)	02 教育振興費
実施主体	その他		事業区分	任意の事業	
目的	対象	市立中学校の生徒	意図	体育文化的活動を活発に行うことにより、心身の健全育成発達や情操教育の発育を促し、対外的な交流と日ごろの活動の成果を発揮する機会を均等に設けることを目的とする。	
内容	生徒数、部活数に応じて一定額を配分、実績に応じて調整した額を各校に配分する。 部活動に必要な備品購入費、生徒及び引率教諭の遠征費として使われる。				
開始年度	平成	年度	根拠法令・要綱等	浜田市校長会・教頭会補助金交付要綱第3条(6)	

II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考
事業費(千円)	7,351	6,951	7,000	入部率	%	100	100	100	
財源内訳									
国県支出金									
地方債									
特定財源									
一般財源	7,351	6,951	7,000						
職員数(人)	0.01	0.01	0.01						
人件費(千円)	62	59	59						
総事業費(千円)	7,413	7,010	7,059						

III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標		単位	H18	H19	H20	長期目標等
	目標値	実績値					
入部率	目標値	100		100	100		
	実績値	100		100	100		
	達成度	100%		100%	100%		
	目標値						
	実績値				-		
	達成度						
【現状と課題】 事業開始からの 状況変化等	旧浜田自治区と旧那賀郡の自治区では補助額に大きな差がある。合併協議を踏まえて浜田方式の一人当たり約1,500円+1部当たり約40,000円の浜田方式に統一をするように調整を図ることとしている。						

IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	3	部活動は教育上、必要不可欠なものであるため市の費用負担は止むを得ない。保護者も一定額を負担している。但し、自治区ごとに市と保護者の負担割合が異なっている点が問題がある。保護者負担金、各校への配分割合の平準化を早期に実現する必要がある。また、生徒個人が購入するべきもの、部費で購入するべきものの基準が不統一である。
	有効性	3	
	公平性	2	
	妥当性	2	
2次評価	総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の必要性は認めるが補助対象経費が不明確。</li> <li>補助金算出の根拠を明確にすべきである。</li> </ul>

# 行政評価票

⑤補助金・交付金

予算事業名	幼児・児童・生徒・教職員健康管理費	10761	作成部課	教育委員会 学校教育課
補助金名	児童生徒動脈硬化危険因子調査事業補助金		作成者(内線)	学事保健係長 森脇昭彦(77-22-467)

## I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	Ⅱ	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	一般会計
中分類(施策)	Ⅱ-2	生きる力を育む学校教育の充実	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	Ⅱ-2-4	健やかな育ちを支える食育と体力づくりの推進	予算費目(項)	06	保健体育費
個別計画			予算費目(目)	01	学校保健費
実施主体	その他		事業区分	任意の事業	
目的	対象	浜田市医師会	意図	児童・生徒の心身の発達に応じた健康の保持・増進を図るため、動脈硬化危険因子の状況を調査して学校の保健指導に活かすとともに、個人の保健指導に活用する。	
内容	市補助1,200円、負担金200円 小学校1年、4年、中学校1年で実施。				
開始年度	平成	年度	根拠法令・要綱等		

## II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考
事業費(千円)	1,562	1,850	1,747	受診者数(児童)	人	644	872	880	
財源内訳	国県支出金			受診者数(生徒)	人	572	564	570	
	地方債			児童・生徒数(参考)	人	1,586	1,610	1,488	
	特定財源			小1、4、中1					
	一般財源	1,562	1,850	1,747					
職員数(人)	0.01	0.01	0.01						
人件費(千円)	62	59	59						
総事業費(千円)	1,624	1,909	1,806						

## III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標		単位	H18	H19	H20	長期目標等
	目標値	実績値					
受信率(受診者数/児童生徒数)	目標値	100	%	100	100	100	データ取得のためには100%が望ましい。
	実績値	86		85.6	-		
	達成度	86%		86%			
異状者率(異状者/受診者数)	目標値	100	%	100	100	100	異状者は0%が望ましい。異状者発見の観点からは異状と思われる者のみ受診で良い。
	実績値	12.4		19.5	-		
	達成度	12%		20%			
【現状と課題】 事業開始からの 状況変化等	自己負担金が200円あるため受診率が約86%で推移している。データ取得のためには受診率100%としたい。しかし、個人の保健指導の観点からは異状と思われる人のみ受診すればよい。						

## IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	3	生活習慣病の危険因子を持つ児童生徒が増加傾向にあるため児童生徒の健康状態を調査するとともに保健指導に必要な検査である。自己負担金も徴収している。委託先は学校医として健康診断を行っている医師会が適切である。
	有効性	2	
	公平性	2	
	妥当性	2	
2次評価	総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進的な取組でありデータの有効活用を図るべき。</li> <li>・補助対象(支出内容)について精査が必要。</li> </ul>

行政評価票

⑤補助金・交付金

予算事業名	小学校教育振興運営費	10702	作成部課	教育委員会 学校教育課
補助金名	体育連盟補助金		作成者(内線)	学事保健係長 森脇昭彦(77-22-467)

I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	II	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	一般会計
中分類(施策)	II-2	生きる力を育む学校教育の充実	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	II-2-4	健やかな育ちを支える食育と体力づくりの推進	予算費目(項)	02	小学校費
個別計画			頁	02	教育振興費
実施主体	その他		事業区分	その他	
目的	対象	小学校体育連盟	意図	児童の体力向上を図り、もって健全な心身の育成に寄与する。	
内容	陸上競技大会、体操競技大会の運営費の補助				
開始年度	平成	年度	根拠法令・要綱等	浜田市小・中体育連盟補助金交付要綱	

II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考
事業費(千円)	1,206	1,100	1,050	陸上競技大会	回	1	1	1	
財源内訳	国県支出金			体操競技大会	回	1	1	1	
	地方債								
	特定財源								
	一般財源	1,206	1,100						
職員数(人)	0.01	0.01	0.01						
人件費(千円)	62	59	59						
総事業費(千円)	1,268	1,159	1,109						

III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標			単位	H18	H19	H20	長期目標等
	大会開催回数	目標値	2	2	2			
	実績値	2	2	-				
	達成度	100%	100%					
	目標値							
	実績値			-				
	達成度							
【現状と課題】 事業開始からの 状況変化等	収入は、学校負担金(80円×3,055人=245千円)、県小体連補助金18千円、市補助金1,200千円、市体協補助金66千円、市体操連盟補助金66千円となっている。支出の多くは貸し切りバスの借上げ料となっている。							

IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	4	体力向上を図り、健全な心身の育成を行うためには練習の目標と活躍の場が必要である。補助金は会費収入等と併せて適正に事業実施に充てられている。小体連は、市体育協会等とも連携が取れており実施団体として適切である。支出の多くはバスの借上げ料で経費削減の余地は限られている。
	有効性	4	
	公平性	3	
	妥当性	3	
2次評価	総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要性を認めるが、金額の妥当性を明確にすべき。</li> <li>補助単価や補助金額の見直しが必要。</li> </ul>

行政評価票

⑤補助金・交付金

予算事業名	教育研究活動事業	10691	作成部課	教育委員会 学校教育課
補助金名	文化活動費補助金		作成者(内線)	学事保健係長 森脇昭彦(77-22-467)

I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	Ⅱ	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	一般会計
中分類(施策)	Ⅱ-2	生きる力を育む学校教育の充実	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	Ⅱ-2-4	健やかな育ちを支える食育と体力づくりの推進	予算費目(項)	01	教育総務費
個別計画			予算費目(目)	03	教育研究指導費
実施主体	その他		事業区分	任意の事業	
目的	対象	浜田市教育研究会	意図	児童生徒の文化活動に対する興味関心を高め、文化的素養の育成を図る。	
内容	小中学校連合音楽祭、小中学校科学作品展、読書感想文コンクール、書写展、児童生徒創作ダンス発表会開催費補助				
開始年度	平成	年度	根拠法令・要綱等	浜田市校長会・教頭会補助金交付要綱第3条(6)	

II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考
事業費(千円)	1,000	980	980	小中学校連合音楽祭	回	1	1	1	
財源内訳	国庫支出金			小中学校科学作品展	回	1	1	1	
	地方債			読書感想文コンクール	回	1	1	1	
	特定財源			書写展	回	1	1	1	
	一般財源	1,000	980	980	児童生徒創作ダンス発表会	回	1	1	1
職員数(人)	0.01	0.01	0.01						
人件費(千円)	62	59	59						
総事業費(千円)	1,062	1,039	1,039	計		5	5	5	

III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標			単位	H18	H19	H20	長期目標等
	目標値	実績値	達成度					
中学校連合音楽祭、小中学校科学作品展、読書感想文コンクール、書写展、児童生徒創作ダンス発表会の開催	目標値	5	5	5	回	5	5	適切な成果指標の設定を検討
	実績値	5	5	5				
	達成度	100%	100%	100%				
	目標値							
	実績値							
	達成度							
【現状と課題】 事業開始からの状況変化等	毎年の出品点数、県展への出品状況等の成果指標を明確にする必要がある。							

IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	3	児童生徒の文化活動への興味関心を高め、文化的素養の育成を図ることは浜田市の教育において重要である。そのために音楽祭、作品展等を開催することは有効な手段である。委託先の浜田市教育研究会(各部会)は、教育効果を考える上で最も適した組織である。経費節減の努力は必要である。
	有効性	3	
	公平性	3	
	妥当性	3	
2次評価	総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要性を認めるが、金額の妥当性を明確にすべき。</li> <li>経費節減の努力が必要。</li> </ul>

# 行政評価票

⑤補助金・交付金

予算事業名	中学校教育振興運営費	10712	作成部課	教育委員会 学校教育課
補助金名	中学校体育連盟補助金		作成者(内線)	学事保健係長 森脇昭彦(77-22-467)

## I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	Ⅱ	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	一般会計
中分類(施策)	Ⅱ-2	生きる力を育む学校教育の充実	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	Ⅱ-2-4	健やかな育ちを支える食育と体力づくりの推進	予算費目(項)	03	中学校費
個別計画			予算費目(目)	02	教育振興費
実施主体	その他		事業区分	その他	
目的	対象	浜田市立中学校	意図	生徒の体力向上を図り、もって健全な心身の育成に寄与する。	
内容	浜田市中学校総合体育大会(6月4~14日)、浜田市新人総合体育大会(10月1~16日)、石見地区大会(野球、ソフトテニス、柔道、陸上、新人体操、バスケットボール)、浜田市中学校駅伝競走大会の運営費補助				
開始年度	平成	年度	根拠法令・要綱等	浜田市小・中体育連盟補助金交付要綱	

## II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考
事業費(千円)	1,206	1,100	1,050	大会開催回数	回	5	5	5	
財源内訳	国県支出金			大会競技数	競技	11	11	11	
	地方債								
	特定財源								
	一般財源	1,206	1,100						
職員数(人)	0.01	0.01	0.01						
人件費(千円)	62	59	59						
総事業費(千円)	1,268	1,159	1,109						

## III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標		単位	H18	H19	H20	長期目標等
	大会開催回数	目標値	回	5	5	5	
		実績値		5	5	-	
		達成度		100%	100%		
	目標値						
	実績値				-		
	達成度						

【現状と課題】 事業開始からの状況変化等 収入は、会費(250円×2,810人(生徒数、部員数、協職員数))=703千円、石見地区大会委託料502千円、市補助金950千円、市体育協会補助金115千円他となっている。支出の多くは貸し切りバスの借上げ料となっている。

## IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	4	体力向上を図り、健全な心身の育成を行うためには部活動と、その活躍の場は必要である。補助金は会費収入等と併せて適正に事業実施に充てられており有効である。市体育協会等とも連携が取れており実施団体として適切である。経費削減の余地は限られており、体育協会の収入状況を勘案すると現状の額が妥当である。
	有効性	4	
	公平性	3	
	妥当性	3	
2次評価	総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要性は認められるが、金額の妥当性を明確にすべき。</li> <li>収支決算書からは全体像が判りにくいので全体を示し透明性を高める必要がある。</li> </ul>

行政評価票

⑤補助金・交付金

予算事業名	中学校教育振興運営費	10712	作成部課	教育委員会 学校教育課
補助金名	全国大会派遣補助金		作成者(内線)	学事保健係長 森脇昭彦(77-22-467)

I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	Ⅱ	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	一般会計
中分類(施策)	Ⅱ-2	生きる力を育む学校教育の充実	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	Ⅱ-2-4	健やかな育ちを支える食育と体力づくりの推進	予算費目(項)	03	中学校費
個別計画			頁	予算費目(目)	02 教育振興費
実施主体	その他		事業区分	その他	
目的	対象	全国大会出場校	意図	全国規模で開催される競技会、コンクール、発表会への参加費用を補助することでスポーツ、文化への興味関心を高め、素養の育成を図る。	
内容	全国大会に出場する児童生徒及び引率教員の旅費及び宿泊料相当額を交付する。				
開始年度	平成	年度	根拠法令・要綱等	浜田市小・中体育連盟補助金交付要綱	

II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考
事業費(千円)	1,000	1,000	900	派遣回数	回			2	
財源内訳	国県支出金								
	地方債								
	特定財源								
	一般財源	1,000	1,000	900					
職員数(人)	0.01	0.01	0.01						
人件費(千円)	62	59	59						
総事業費(千円)	1,062	1,059	959						

III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標		単位	H18	H19	H20	長期目標等
	派遣回数	目標値	実績値	回		2	2
	達成度				100%		
	目標値	実績値				-	
	達成度						
【現状と課題】 事業開始からの 状況変化 等	激励金(5千円/人)をH20年度から補助金(実費支給)としていた。参加予測が困難である。						

IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	3	全国大会に出場する選手の姿は他の児童生徒の励みとなる。補助を無くした場合、指導教諭、保護者の負担となり意欲を減退させる。全国大会出場者は良い結果を残しており啓発に対して有効である。全国大会出場者には全て補助することになっており公平性は確保されている。また、補助額は交通費、宿泊費実費のみとなっているので妥当と考える。
	有効性	3	
	公平性	3	
	妥当性	3	
2次評価	総合評価	A	・出場生徒への補助は必要ではあるが、引率教諭・指導者は出張旅費等がないのか要確認。 ・県からの補助も要望すべき。

# 行政評価票

⑤補助金・交付金

予算事業名	学校保健管理費	10760	作成部課	教育委員会 学校教育課
補助金名	学校医師会補助金		作成者(内線)	学事保健係長 森脇昭彦(77-22-467)

## I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	Ⅱ	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	一般会計
中分類(施策)	Ⅱ-2	生きる力を育む学校教育の充実	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	Ⅱ-2-4	健やかな育ちを支える食育と体力づくりの推進	予算費目(項)	06	保健体育費
個別計画			頁	01	学校保健費
実施主体	その他		事業区分	その他	
目的	対象	学校医師会	意図	幼児、児童、生徒及び教職員の健康の維持・増進を図り、関係法令に従い健康診断などを実施する。また、教育委員会、学校保健会、他関係諸団体と連携し、学校保健に関する調査の実施と広報活動、学校保健に関する研修会を実施する。	
内容	学校保険に関する調査と広報活動、研修会の実施、全国学校保健・学校医大会への参加、食育の推進 学校医部会 25人×15,000円=375,000円 学校歯科医師会 21人×15,000円=315,000円 学校薬剤師会 20人×9,000円=180,000円				
開始年度	平成	年度	根拠法令・要綱等	学校医師会等補助金交付要綱	

## II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考	
事業費(千円)	680	870	870	研修会の実施  中四国学校保健学校医大会への協力						
財源内訳	国庫支出金									
	地方債									
	特定財源									
	一般財源	680	870	870						
職員数(人)	0.01	0.01	0.01							
人件費(千円)	62	59	59							
総事業費(千円)	742	929	929							

## III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標	単位	H18	H19	H20	長期目標等
		目標値				
	実績値					
	達成度					
	目標値					
	実績値					
	達成度					
【現状と課題】 現在、医師会は各自地区ごとに組織されているが、補助は浜田自治区のみとなっている。 事業開始からの状況変化等 また、学校医の関係では学校医報酬14,424千円、結核予防対策検討委員会72千円、児童生徒動脈硬化危険因子調査事業1,747千円、学校保健会補助金275千円を支出している。						

## IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	3	児童生徒の保健を維持するために学校医の役割は重要で、研修により技術を高めることは必要なことである。医師が時間を割いて研修等を行うことに対して一定の補助は必要と考えられる。しかし、浜田自治区以外では補助をしていないことから公平性に欠ける。また、金額の算定根拠も明確ではない。
	有効性	2	
	公平性	2	
	妥当性	2	
2次評価	総合評価	C	・補助の目的と内容が不明確。浜田市医師会のみが対象。 ・学校医等としての研修や会合が必要な場合は、教育委員会が主催することも検討。

行政評価票

⑤補助金・交付金

予算事業名	教育研究活動事業	10702	作成部課	教育委員会 学校教育課
補助金名	小規模校等学校間交流事業費補助金		作成者(内線)	学事保健係長 森脇昭彦(77-22-467)

I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	Ⅱ	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	一般会計
中分類(施策)	Ⅱ-2	生きる力を育む学校教育の充実	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	Ⅱ-2-2	確かな学力の定着に向けた取組みの推進	予算費目(項)	01	教育総務費
個別計画			予算費目(目)	03	教育研究指導費
実施主体	その他		事業区分	その他	
目的	対象	浜田市教育研究会(へき地小規模校部会)	意図	小規模校の児童が、他校の児童と交流や親睦を深めることによって、視野を広げ、協力する態度や集団への適応力を身に付ける。	
内容	低学年:水泳指導、ゲームや運動 中学年:英語活動、スポーツ交流会 高学年:英語活動、バスケットボール、修学旅行打ち合わせ(合同修学旅行準備) 集合学習				
開始年度	平成	年度	根拠法令・要綱等	浜田市教育研究会補助金交付要綱	

II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考
事業費(千円)	1,206	1,100	1,050	交流回数(低学年)	回	7	7	7	
財源内訳	国県支出金			交流回数(中学年)	回	7	7	7	
	地方債			交流回数(高学年)	回	4	4	4	
	特定財源								
	一般財源	1,206	1,100	1,050					
職員数(人)	0.01	0.01	0.01						
人件費(千円)	62	59	59			18	18	18	
総事業費(千円)	1,268	1,159	1,109						

III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標		単位	H18	H19	H20	長期目標等
	交流回数	目標値		18	18	18	事業実施により児童の団体への適応力がいかに高まったかを図る指標として、アンケート等が考えられる。
		実績値		18	18	-	
		達成度		100%	100%		
	目標値						
	実績値						
	達成度						

【現状と課題】  
 事業開始からの状況変化等  
 交流のテーマとしてエコクリーンセンター、アクアス等の見学を行っているが、集団への適用力を高める方法を模索するべき。

IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	3	小規模校児童の集団への適用力を高めるために必要な事業である。ゲーム、スポーツ交流、修学旅行事前学習等の活動は有効である。自治区間で交流回数の差があるが、これまでの経緯等を踏まえた検討を要する。費用は輸送費が大部分を占めている。
	有効性	3	
	公平性	3	
	妥当性	3	
2次評価	総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要性を認めるが、金額の妥当性を明確にすべき。</li> <li>事業内容の見直しを検討し、ある程度の削減努力が必要。</li> </ul>



行政評価票

⑤補助金・交付金

予算事業名	小学校教育振興運営費	010702	作成部課	教育委員会 金城分室
補助金名	小学校スキー教室補助金		作成者(内線)	教育振興係長 金子正志(262)

I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	Ⅱ	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	一般
中分類(施策)	Ⅱ-2	生きる力を育む学校教育の充実	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	Ⅱ-2-5	安心で安全な教育環境の整備	予算費目(項)	02	小学校費
個別計画			予算費目(目)	02	教育振興運営費
実施主体	補助【民間その他】		事業区分	任意の事業	
目的	対象	金城自治区校長連絡会	意図	金城自治区の自然立地を生かし、冬場の体育的行事としてスキー教室を実施するため、保護者負担の軽減を図る。	
内容	金城自治区内の3小学校のスキー教室実施に当たってのリフト使用料、スキー用具のレンタル代等についての一部助成し保護者負担の軽減を図る。 雲城小は年1回3年生以上、今福小は年1回4年生以上、波佐小は年2回全校で実施				
	平成	年度	根拠法令・要綱等	金城自治区教育振興補助金交付要綱	

II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考
事業費(千円)	200	200	200	教室開催日数	日	4	4	4	
財源内訳	国県支出金								
	地方債								
	特定財源								
	一般財源	200	200	200					
職員数(人)	0.01	0.01	0.01						
人件費(千円)	62	59	59						
総事業費(千円)	262	259	259						

III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標			単位	H18	H19	H20	長期目標等	
	本事業は金城自治振興基金対応事業であり、補助金額は、合併後5年間(平成22年度までは200千円とし、平成23年度以降は180千円とする。	目標値	200	200	200				
		実績値	200	200	200				
		達成度	100%	100%	100%				
	目標値								
	実績値								
	達成度								
【現状と課題】 事業開始からの状況変化等	金城自治区の自然立地を生かし、冬場の体育的行事としてスキー教室を実施するため、保護者負担の軽減を図ってきた。 近年は、スキーの好きな児童は、スキー山岳会に加入し、冬場に毎週練習を行い、島根県や中国地区の各種大会に参加し、優秀な成績を上げている児童もいるため継続して補助事業を実施したい。								

IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	4	金城自治区の自然立地を生かした小学校の事業として必要と認められるため「必要性」「有効性」を「4」、「妥当性」を「3」とし、「公平性」については、自治区独自のものであるため、「2」とした。
	有効性	4	
	公平性	2	
	妥当性	3	
2次評価	総合評価	B	・学校教育面での必要性は認められるが、全市的事业ではない。 ・補助単価又は保護者負担の基準を設定するなど補助基準の統一化、金額見直しが必要。

行政評価票

⑤補助金・交付金

予算事業名	小学校教育振興運営費	10702	作成部課	教育委員会 旭分室
補助金名	小学校スキー教室補助金		作成者(内線)	教育振興係 難波泰幸(312)

I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	II	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	一般会計
中分類(施策)	II-2	生きる力を育む学校教育の充実	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	II-2-5	安心で安全な教育環境の整備	予算費目(項)	02	小学校費
個別計画			予算費目(目)	02	教育振興運営費
実施主体	補助【民間その他】		事業区分	任意の事業	
目的	対象	旭自治区校長連絡会	意図	児童がスキーに親しみを持ち、併せて体力の増進を図る。自治区内のスキー場利用の活性化の一助とする。	
内容	旭自治区内4小学校(18年度まで5校)のスキー教室実施に対し、リフト利用料・講師料等の一部を助成し保護者負担の一部軽減を図る。 全校シーズン中2回実施、全児童参加。				
開始年度	平成	年度	根拠法令・要綱等	旭自治区スキー教室補助金交付要綱	

II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考
事業費(千円)	193	172	198	教室開催日数	回	10	8	8	
財源内訳									
国県支出金									
地方債									
特定財源									
一般財源	193	172	198						
職員数(人)	0.01	0.01	0.01						
人件費(千円)	62	59	59						
総事業費(千円)	255	231	257						

III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標		単位	H18	H19	H20	長期目標等
	全児童参加	目標値	193	千円	193	172	198
実績値		193	172		-		
達成度		100%	100%				
	目標値						
	実績値				-		
	達成度						
【現状と課題】 事業開始からの 状況変化等	旭町当事にスキー場が開設されたことを契機に、学校行事の一環として定着した。 土地柄、スキーの普及を図る意味でも経費の一部を助成してきた。 近年、降雪量が少なく良好な状態での実施が難しい。						

IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	3	地元でスキー場があるという特性を生かし今後も実施したい。よって、必要性・有効性・妥当性を「3」とし 公平性については「2」とした。
	有効性	3	
	公平性	2	
	妥当性	3	
2次評価	総合評価	B	・学校教育面での必要性は認められるが、全市的事业ではない。 ・補助単価又は保護者負担の基準を設定するなど補助基準の統一化、金額見直しが必要。

行政評価票

⑤補助金・交付金

予算事業名	小学校教育振興運営費	010702	作成部課	教育委員会 弥栄分室
補助金名	スキー教室補助金		作成者(内線)	教育振興係長 藤井 雅也 (77-48-18)

I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	Ⅱ	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	一般会計
中分類(施策)	Ⅱ-2	生きる力を育む学校教育の充実	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	Ⅱ-2-4	健やかな育ちを支える食育と体力づくりの推進	予算費目(項)	02	小学校費
個別計画			頁	02	教育振興費
実施主体	補助【民間その他】		事業区分	任意の事業	
目的	対象	自治区校長会長	意図	近隣にスキー場がある条件をいかに冬場の体育行事としてスキー教室を実施するにあたり、保護者負担の軽減を図る。	
内容	スキー教室の実施に当たってのリフト使用料、スキー用具のレンタル代等について一部助成し、保護者負担の軽減を図る。教室は年1回開催し、参加対象は3年生以上。				
開始年度	平成	年度	根拠法令・要綱等	浜田市補助金等交付規則	

II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考
事業費(千円)	106	81	100	教室開催日数	日	1	1	1	
財源内訳	国県支出金								
	地方債								
	特定財源								
	一般財源	106	81	100					
職員数(人)	0.01	0.01	0.01						
人件費(千円)	62	59	59						
総事業費(千円)	168	140	159						

III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標		単位	H18	H19	H20	長期目標等
	教室参加児童数と経費		千円	目標値 106	81	100	
			実績値 106	81	-		
			達成度 100%	100%			
			目標値				
			実績値		-		
			達成度				
【現状と課題】 事業開始からの 状況変化 等	保護者負担の軽減により対象児童の欠席はなく、すべての児童が教室に参加できている。						

IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	3	冬季間積雪が多く、近隣にスキー場があるという条件を生かした本事業は必要と認められるため「必要性」「妥当性」を「3」、「公平性」については、全市的な事業でないため「2」とする。
	有効性	3	
	公平性	2	
	妥当性	3	
2次評価	総合評価	B	・学校教育面での必要性は認められるが、全市的事业ではない。 ・補助単価又は保護者負担の基準を設定するなど補助基準の統一化、金額見直しが必要。

行政評価票

⑤補助金・交付金

予算事業名	中学校教育振興運営費	010712	作成部課	教育委員会 金城分室
補助金名	中学校スキー教室補助金		作成者(内線)	教育振興係長 金子正志(262)

I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	Ⅱ	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	一般
中分類(施策)	Ⅱ-2	生きる力を育む学校教育の充実	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	Ⅱ-2-5	安心で安全な教育環境の整備	予算費目(項)	03	中学校費
個別計画			予算費目(目)	02	教育振興運営費
実施主体	補助【民間その他】		事業区分	任意の事業	
目的	対象	金城自治区校長連絡会	意図	金城自治区の自然立地を生かし、冬場の体育的行事としてスキー教室を実施するため、保護者負担の軽減を図る。	
内容	金城中学校のスキー教室実施に当たってのリフト使用料、スキー用具のレンタル代等についての一部助成し保護者負担の軽減を図る。 各学年ごとに年1回実施				
	平成	年度	根拠法令・要綱等	金城自治区教育振興補助金交付要綱	

II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考
事業費(千円)	400	400	400	教室開催日数	日	3	3	3	
財源内訳	国県支出金								
	地方債								
	特定財源								
一般財源	400	400	400						
職員数(人)	0.01	0.01	0.01						
人件費(千円)	62	59	59						
総事業費(千円)	462	459	459						

III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標		単位	H18	H19	H20	長期目標等
	本事業は金城自治振興基金対応事業であり、補助金額は、合併後5年間(平成22年度までは400千円とし、平成23年度以降は360千円とする。	目標値	400	千円	400	400	400
実績値		400	400		400		
達成度		100%	100%		100%		
【現状と課題】 事業開始からの状況変化等	目標値						
	実績値						
	達成度						

金城自治区の自然立地を生かし、冬場の体育的行事としてスキー教室を実施するため、保護者負担の軽減を図ってきた。  
近年は、スキーの好きな生徒は、スキー山岳会に加入し、冬場に毎週練習を行い、島根県や中国地区の各種大会に参加し、全国大会に出場するなど優秀な成績を上げている生徒もいるため継続して補助事業を実施したい。

IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	3	金城自治区の自然立地を生かした中学校の事業として必要と認められるため「必要性」「有効性」を「4」、「妥当性」を「3」とし、「公平性」については、自治区独自のものであるため、「2」とした。
	有効性	3	
	公平性	2	
	妥当性	3	
2次評価	総合評価	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育面での必要性は認められるが、全市的事业ではない。</li> <li>補助単価又は保護者負担の基準を設定するなど補助基準の統一化、金額見直しが必要。</li> </ul>

行政評価票

⑤補助金・交付金

予算事業名	中学校教育振興運営費	010712	作成部課	教育委員会 弥栄分室
補助金名	スキー教室補助金		作成者(内線)	教育振興係長 藤井 雅也(77-48-18)

I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	II	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	一般
中分類(施策)	II-2	生きる力を育む学校教育の充実	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	II-2-4	健やかな育ちを支える食育と体力づくりの推進	予算費目(項)	03	中学校費
個別計画			頁	02	教育振興費
実施主体	補助【民間その他】		事業区分	任意の事業	
目的	対象	自治区校長会長	意図	近隣にスキー場がある条件を生かし、冬場の体育行事としてスキー教室を実施するにあたり、保護者負担の軽減を図る。	
内容	スキー教室の実施に当たってのリフト使用料、スキー用具のレンタル代等について一部助成し、保護者負担の軽減を図る。教室は年1回開催し、参加対象は1・2年生。				
開始年度	平成	年度	根拠法令・要綱等	浜田市補助金等交付規則	

II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考
事業費(千円)	60	80	66	教室開催日数	日	1	1	1	
財源内訳									
国県支出金									
地方債									
特定財源									
一般財源	60	80	66						
職員数(人)	0.01	0.01	0.01						
人件費(千円)	62	59	59						
総事業費(千円)	122	139	125						

III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標		単位	H18	H19	H20	長期目標等
	目標値	実績値					
参加生徒数と経費	目標値	60	千円	60	80	66	
	実績値	60		60	80	-	
	達成度	100%		100%			
	目標値						
	実績値					-	
	達成度						
【現状と課題】	事業開始からの状況変化等 保護者負担の軽減により対象生徒の欠席はなく、すべての生徒が教室に参加できている。						

IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	3	冬季間の積雪が多く、近隣にスキー場があるという条件を生かした本事業は必要と認められるため「必要性」「妥当性」を「3」、「公平性」については、全市的な事業でないため「2」とする。
	有効性	3	
	公平性	2	
	妥当性	3	
2次評価	総合評価	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育面での必要性は認められるが、全市的事业ではない。</li> <li>補助単価又は保護者負担の基準を設定するなど補助基準の統一化、金額見直しが必要。</li> </ul>

行政評価票

⑤補助金・交付金

予算事業名	教育研究活動事業	010691	作成部課	教育委員会 学校教育課
補助金名	特別支援学級活動補助金		作成者(内線)	指導相談係長 斎藤憲司(77-22-471)

I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	Ⅱ	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	一般会計
中分類(施策)	Ⅱ-2	生きる力を育む学校教育の充実	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	Ⅱ-2-3	一人ひとりを大切にする教育の推進	予算費目(項)	01	教育総務費
個別計画			頁	03	教育研究指導費
実施主体	その他		事業区分	任意の事業	
目的	対象	浜田市教育研究会特別支援教育部	意図	特別支援学級に在籍する児童生徒の活動費等を補助することによって、特別支援教育のより一層の推進を図る。	
内容	特別支援教育の一環として行なわれる他学校の特別支援学級に在籍する児童生徒との交流校外活動等に参加する際の教材費、交通費等相当額、また県特別支援学級研究会負担金を交付する。				
開始年度	平成	年度	根拠法令・要綱等	浜田市教育研究会補助金交付要綱	

II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考
事業費(千円)	205	417	410	実施回数	回	12	30	30	
財源内訳									
国県支出金									
地方債									
特定財源									
一般財源	205	417	410						
職員数(人)	0.01	0.01	0.01						
人件費(千円)	62	59	59						
総事業費(千円)	267	476	469						

III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標		単位	H18	H19	H20	長期目標等
	目標値	実績値		12	30	30	
実施回数	目標値	12	回	12	30	30	
	実績値	12		12	30	-	
	達成度	100%		100%	100%		
達成度	目標値						
	実績値					-	
	達成度						
【現状と課題】 事業開始からの 状況変化等	特別支援学級の児童生徒が集団活動を行う際、通常の学級との交流学习を行っているが、ハンディあるため役割に限られる。しかし、本事業の導入により他校の同じハンディのある児童生徒と定期的に交流を図ることにより、仲間意識や自尊感情が高まった。						

IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	3	平成19年4月から、「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられ、すべての学校において、障害のある幼児児童生徒の支援をさらに充実していくこととなった。他学校との交流及び共同学習は、障害のある児童生徒の社会性や豊かな人間性を育む上で重要な役割を担っている。今後も教育的ニーズに対応した活動内容・方法を十分検討し、早期から組織的、計画的、継続的に実施することなど、一層の効果的な実施に向けた取組を推進する必要がある。
	有効性	3	
	公平性	3	
	妥当性	3	
2次評価	総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害のある幼児、児童を守るための支援は重要で、必要な補助金である。</li> <li>金額の妥当性を明確にし、一層の効果をおよぼすべく努力する必要がある。</li> </ul>

# 行政評価票

**⑤補助金・交付金**

予算事業名	中学校教育振興運営費	010712	作成部課	教育委員会 金城分室
補助金名	中学校保健体育文化活動補助金		作成者(内線)	教育振興係長 金子正志(262)

## I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	Ⅱ 豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	一般
中分類(施策)	Ⅱ-2 生きる力を育む学校教育の充実	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	Ⅱ-2-5 安心で安全な教育環境の整備	予算費目(項)	03	中学校費
個別計画		頁		
実施主体	補助【民間その他】	事業区分	任意の事業	
目的	対象 金城自治区校長連絡会	意図	集団生活の中でのルールや約束を守り、適応する力を身につける。 責任を持って自分の仕事を果たそうとする態度を身につける。 協力しながら工夫して課題を解決していこうとする態度を身につける。	
内容	国立江田島青年の家(広島県安芸郡江田島町)で新1年生になった中学生で集団生活等を行い、生きる力や協調性、責任感等を養う。2泊3日で実施 平成18年度は国立三瓶青年の家で2泊3日で実施			
	平成	年度	根拠法令・要綱等	金城自治区教育振興補助金交付要綱

## II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考
事業費(千円)	280	310	310	研修日数	日	3	3	3	
財源内訳	国庫支出金								
	地方債								
	特定財源								
	一般財源	280	310	310					
職員数(人)	0.01	0.01	0.01						
人件費(千円)	62	59	59						
総事業費(千円)	342	369	369						

## III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標			単位	H18	H19	H20	長期目標等
	本事業は金城自治振興基金対応事業であり、補助金額は、合併後5年間(平成22年度まで)は310千円とし、平成23年度以降は280千円とする。	目標値	280	310	310			
実績値		280	310	310				
達成度		100%	100%	100%				
目標値								
実績値								
達成度								
【現状と課題】 事業開始からの状況変化等	平成12年度より新1年生を対象としての宿泊研修を実施している。当初は旧金城町内の6小学校から金城中学校へ入学しており、新1年生になり町内のいろいろなところから通学している生徒達の交流を含めた事業として取り組み、集団生活を行うことで協調性や生きる力を身につけさせ、3年間の中学生生活を送ることを目的として実施していた。							

## IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	4	金城中学校独自の事業であるが、中学校への適応や青少年健全育成等にも一約を担っている事業であり必要と認められるため「必要性」「有効性」「妥当性」を「4」とし、「公平性」については、自治区独自のものであるため、「2」とした。
	有効性	4	
	公平性	2	
	妥当性	4	
2次評価	総合評価	C	・当初(H12年)との環境変化を考慮すべき。 ・縮小または終期を決めて廃止すべきである。

行政評価票

⑤補助金・交付金

予算事業名	浜田一益田間駅伝競走大会助成事業	10774	作成部課	教育委員会
補助金名	浜田一益田間駅伝競走大会(本部)補助金		作成者(内線)	スポーツ振興係長 竹中博文(77-22-458)

I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	Ⅱ	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	浜田一益田間駅伝競走大会助成事業
中分類(施策)	Ⅱ-3	生涯を通じて活動できるスポーツの振興	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	Ⅱ-3-2	スポーツ精神のかん養と競技力向上の推進	予算費目(項)	06	保健体育費
個別計画			頁	03	体育費
実施主体	補助【民間その他】		事業区分	市の条例・規則・告示に基づく事業	
目的	対象	しおかぜ駅伝事務局実行委員会	意図	石見西部地域の活性化と競技力の向上	
内容	師走の石見路を走る「しおかぜ駅伝」として定着した石見地域の一大イベント。中学生、高校、社会人およびふるさと選手によりチームが構成され、県内市町より多数の参加がある。て				
開始年度	平成	4年度	根拠法令・要綱等	浜田市社会教育関係団体補助金交付要綱	

II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考
事業費(千円)	1,500	1,250	1,000	参加団体数	団体	42	42	45	
財源内訳									
国県支出金									
地方債									
特定財源									
一般財源	1,500	1,250	1,000						
職員数(人)	0.01	0.01	0.01						
人件費(千円)	62	59	59						
総事業費(千円)	1,562	1,309	1,059						

III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標		単位	H18	H19	H20	長期目標等
	目標値	実績値		達成度	達成度	達成度	
参加団体数/最大参加団体総数	目標値	54		54		50	
	実績値	42		42			
	達成度	78%		78%		0%	
【現状と課題】 事業開始からの 状況変化等	目標値						
	実績値						
	達成度						

市町村合併により、参加チームが減少傾向にある。また地元企業からの協賛金及び行政からの補助金の減少による運営自体が厳しい状況にあり、大会の存続も含め運営手法を再考する必要がある。また、石見西部地域の振興に波及させる方策の検討も必要である。助成に関しては、他の団体が行うスポーツイベントと比べ公平性に欠ける面がある。

IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	4	石見西部地域の一大スポーツイベントとして定着しており、今後も存続させたい。そのためには、参加料も含めて運営手法についても見直す必要があると考える。 民間主導型へ移行しつつあるが、当地域の経済面を考慮すれば、ある程度の助成も必要であると考える。
	有効性	3	
	公平性	3	
	妥当性	2	
2次評価	総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>石見地区一大イベントであり一定の助成は必要である。</li> <li>益田市との負担割合を含め補助金額を見直すとともに、収入を増やす努力が必要。</li> </ul>



# 行政評価票

## ⑤補助金・交付金

予算事業名	浜田一益田間駅伝競走大会助成事業	10774	作成部課	教育委員会
補助金名	浜田一益田間駅伝競走大会(地区)補助金		作成者(内線)	スポーツ振興係長 竹中博文(77-22-458)

### I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	Ⅱ	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	浜田一益田間駅伝競走大会助成事業
中分類(施策)	Ⅱ-3	生涯を通じて活動できるスポーツの振興	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	Ⅱ-3-2	スポーツ精神のかん養と競技力向上の推進	予算費目(項)	06	保健体育費
個別計画			頁	03	体育費
実施主体	補助【民間その他】		事業区分	市の条例・規則・告示に基づく事業	
目的	対象	各自治区実行委員会	意図	旧市町村ごとにチームを編成し、それぞれの競技力向上とスポーツ振興を図る。	
内容	大会に向けた強化練習、本番におけるチーム管理等に係る経費に対する助成。				
開始年度	平成	4年度	根拠法令・要綱等	浜田一益田間駅伝競走大会地区実行委員会補助金交付要綱	

### II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考
事業費(千円)	530	430	585	参加チーム数	チーム	5	5	5	
財源内訳	国県支出金								
	地方債								
	特定財源								
	一般財源	250	200						
職員数(人)	0.06	0.06	0.06						
人件費(千円)	369	356	356						
総事業費(千円)	899	786	941						

### III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標		単位	H18	H19	H20	長期目標等
	参加チーム数	目標値		位	5	5	5
実績値			5		5		
達成度			100%		100%	0%	
...	目標値		...				
	実績値						
	達成度						
【現状と課題】 事業開始からの 状況変化等	しおかぜ駅伝は、中学(男女)、一般と次の世代を担う選手(ふるさと選手)の構成により、地域の選手育成強化と地スポーツ振興の一役を担っているが、少子による若年選手の減少と社会人選手の高齢化によって弱体化しつつある。						

### IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	3	開催地の地元であることから、多くのチームを参加させたい。今後の展望として、選手選考会を開催し、その中から浜田代表チーム、体協選抜(複数)を編成し優勝と上位入賞をめざしたい。
	有効性	4	
	公平性	3	
	妥当性	3	
2次評価	総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石見地区の大きなイベントであり競技力向上の為の必要性は認める。</li> <li>・総額の削減を図る中で、チーム数の削減も含め有効な予算配分を検討すべき。</li> </ul>

行政評価票

⑤補助金・交付金

予算事業名	生涯学習推進本部事業	010753	作成部課	教育委員会 三隅分室
補助金名	生涯学習セミナー補助金		作成者(内線)	教育振興係長 桑本 聖 (32-224)

I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	Ⅱ	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	一般会計
中分類(施策)	Ⅱ-1	生涯学習の推進と地域活動を担う人材の育成	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	Ⅱ-1-2	生涯の各期に対応した学習機会の提供	予算費目(項)	05	社会教育費
個別計画			予算費目(目)	06	生涯学習推進費
実施主体	補助【民間その他】		事業区分	任意の事業	
目的	対象	各地区生涯学習地域推進委員会	意図	地域住民の学習の場や、活動の拠点となる公民館と一体となり、住民のニーズに応えるために実施するセミナーに対し補助し、住み良い地域社会づくりを推進する。	
内容	各地区の生涯学習地域推進委員会が企画・立案実施するセミナーへの補助金を交付する。				
開始年度	平成 19 年度	根拠法令・要綱等	三隅生涯学習推進セミナー補助金交付要綱		

II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考
事業費(千円)	603	517	488	セミナー開催回数	回	16	17	17	
財源内訳	国県支出金			参加者数	人	875	844	900	
	地方債								
	特定財源								
	一般財源	603	517	488					
職員数(人)	0.02	0.02	0.02						
人件費(千円)	123	119	119						
総事業費(千円)	726	636	607						

III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標		単位	H18	H19	H20	長期目標等
	目標値	実績値		達成度	目標値	実績値	
事業参加者数(6地区合計)	目標値	900	人	900	900	900	
	実績値	875		875	844	-	
	達成度	97%		97%	94%		
【現状と課題】 事業開始からの 状況変化 等	目標値						
	実績値					-	
	達成度						

各地区の推進委員が地域の実態を把握し、住民ニーズに応えうる事業を展開する仕組みづくりが定着してきた。ソフト事業であり、成果を実証することは困難であるが、公民館や自治会をはじめ地域住民に浸透し始め、地域づくりを目的とした取り組みが増えてきている。

IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	4	平成3年度から「生涯学習のまちづくり」を推進し、今日に至っている。自治区内6地区に住民代表で組織する推進委員会を中心に、一人ひとりが生涯を通じて生き生きと学び、住み良い地域社会づくりを推進するため、各セミナーを開催していることから、必要性・有効性は4とした。また、開始以来補助の見直し等がされていないため、妥当性は3とした。
	有効性	4	
	公平性	4	
	妥当性	3	
2次評価	総合評価	B	・行政直接でなく、住民が中心となった地域力で事業を展開することは、今後益々重要となる。公民館単位に地域推進委員会(住民中心)を設置した取り組みは全市的な展開が望まれる。

行政評価票

⑤補助金・交付金

予算事業名	社会体育推進事業	010771	作成部課	教育委員会 弥栄分室
補助金名	浜田カップフットサル大会実行委員会補助金		作成者(内線)	教育振興係長 藤井 雅也(77-48-18)

I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	II	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	一般会計
中分類(施策)	II-3	生涯を通じて活動できるスポーツの振興	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	II-3-2	スポーツ精神のかん養と競技力向上の推進	予算費目(項)	06	保健体育費
個別計画			頁	03	体育費
実施主体	補助【民間その他】		事業区分	任意の事業	
目的	対象	小学生フットサル石見交流選手権大会実行委員会	意図	県西部の小学生の交流事業。	
内容	島根県西部の小学生を対象に、フットサルや木工教室を通じて交流を図る。				
開始年度	平成 19 年度	根拠法令・要綱等			

II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考	
事業費(千円)	0	500	475	参加チーム			12	12		
財源内訳	国県支出金									
	地方債									
	特定財源									
	一般財源		500	475						
職員数(人)	0.01	0.01	0.01							
人件費(千円)	62	59	59							
総事業費(千円)	62	559	534							

III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標		単位	H18	H19	H20	長期目標等
	参加チーム数の維持	目標値		チーム数		12	12
実績値					12	-	
達成度					100%		
目標値							
実績値						-	
達成度							
<p>【現状と課題】 事業開始からの状況変化等 実行委員会形式の本大会は、事務局が外部にあることから、市が主導できない。</p>							

IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	4	交流事業の要素が強いので「必要性」「有効性」「妥当性」「公平性」について「4」とする。
	有効性	4	
	公平性	4	
	妥当性	4	
2次評価	総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間(協賛)等が下支えする中で浜田市が一定の助成を行うことは妥当である。</li> <li>・補助金額については参加者(保護者等)の負担増を求める等により見直しが必要。</li> </ul>

行政評価票

⑤補助金・交付金

予算事業名	社会体育推進事業	10771	作成部課	教育委員会 旭分室
補助金名	地区民体育大会補助金		作成者(内線)	教育振興係 難波泰幸(312)

I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	Ⅱ	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	一般会計
中分類(施策)	Ⅱ-3	生涯を通じて活動できるスポーツの振興	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	Ⅱ-3-1	心身の健康を養うスポーツ・レクリエーション活動の推進	予算費目(項)	06	保健体育費
個別計画			予算費目(目)	03	体育費
実施主体	補助【NPO・自治会】		事業区分	任意の事業	
目的	対象	自治会	意図	合併前の小学校区単位での運動会を開催し、スポーツへの関心と親睦を図る。	
内容	賞品、用具費等に係る事業に要する経費への支援				
開始年度	平成	年度	根拠法令・要綱等	旭自治区地区民体育大会補助金交付要綱	

II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考
事業費(千円)	300	300	300	参加人数	人	1335	1240	1200	
財源内訳									
国県支出金									
地方債									
特定財源									
一般財源	300	300	300						
職員数(人)	0.01	0.01	0.01						
人件費(千円)	62	59	59						
総事業費(千円)	362	359	359						

III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標		単位	H18	H19	H20	長期目標等
	目標値	実績値		達成度	目標値	実績値	
参加人数	目標値		人		1200	1200	
	実績値			1335	1240	-	
	達成度				103%		
	目標値						
	実績値					-	
	達成度						
【現状と課題】 事業開始からの 状況変化 等	限界集落も増加し、参加可能対象人口が減少している。小学生・未就学児の減少により競技種目が縮減している。 平成19年より中学生の役員等への参画を分室で奨励している。						

IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	3	秋の恒例行事として定着してきた経緯、地区の活性化を目的とすることから全て「3」とした。
	有効性	3	
	公平性	3	
	妥当性	3	
2次評価	総合評価	C	・将来的な廃止を視野に段階的に削減。

行政評価票

⑤補助金・交付金

予算事業名	文化振興事業	010733	作成部課	教育委員会 文化振興課
補助金名	浜田市スクールコンサート補助金		作成者(内線)	芸術文化振興係長 三浦博道(77-22-464)

I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	II	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	一般会計
中分類(施策)	II-4	歴史・文化の伝承と地域性豊かな文化の創造	予算費目(款)	10	教育費
小分類(中施策)	II-4-2	文化創造のための環境づくり	予算費目(項)	05	社会教育費
個別計画	浜田市教育振興計画「はまだっ子プラン」		23	頁	予算費目(目)
実施主体	補助【民間その他】		事業区分	任意の事業	
目的	対象	浜田市教育研究会 音楽部	意図	小中学生に対して優れた芸術の鑑賞機会を提供することにより、情操豊かな人間形成の一助とする。	
内容	プロ奏者によるピアノとヴァイオリンの演奏会を、市内小中学校全校を3か年に分けて巡回公演。(1会場最大入場人数 原則200名以内) (H19年度15校、H20年度16校、H21年度8校。但し、一中・三中については3年生のみとし毎年度巡回、また小規模校については合同開催。H18年度までは旧浜田市内の小中学校で開催。) ※この事業は、(財)日本青少年文化センター・島根県の「青少年劇場小公演」として、浜田市教育委員会を含めた共催事業である。				
開始年度	平成	3	年度	根拠法令・要綱等	浜田市芸術鑑賞体験事業補助金交付要綱

II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考
事業費(千円)	1,075	972	1,167	公演回数	回	9	7	7	
財源内訳									
国県支出金									
地方債									
特定財源									
一般財源	1,075	972	1,167						
職員数(人)	0.08	0.08	0.08						
人件費(千円)	492	474	474						
総事業費(千円)	1,567	1,446	1,641						

III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標		単位	H18	H19	H20	長期目標等
	鑑賞人数(児童生徒、教職員、保護者) ※目標値には小学校3年生以下、教職員、保護者は含んでいない。	目標値	実績値	人	1082	1222	1075
	達成度			127%	109%	131%	
	目標値						
	実績値					-	
	達成度						
【現状と課題】 事業開始からの 状況変化等	旧浜田市で取り組んでいた事業を合併後の平成19年度から全市対象に広げた。実際にプロ奏者の優れた演奏に身近に触れ、わかり易く音楽や楽器について説明してもらうことにより、子どもたちにとって大変貴重な体験を得ている。本来ならば学校教育の場でより多くの芸術鑑賞機会を与えたいが、あとは石央文化ホール等での機会を提供し家庭での取り組みを促進する必要がある。						

IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	4	必要性・妥当性について、優れた芸術鑑賞のできる機会が少ない地方にあって、学校教育の場でこのような機会を提供することは重要なことなので、実際には3年に1度の体験とはいえ4とした。 有効性については、目に見える具体的な成果を示すことが困難なため3とした。 4年生以上の児童生徒は平等に体験できるものの、学校規模により優遇があるので公平性は3とした。
	有効性	3	
	公平性	3	
	妥当性	4	
2次評価	総合評価	A	・人材育成を進めるうえで一流の芸術に触れる機会を増やす事は必要性が認められる。

行政評価票

⑤補助金・交付金

予算事業名	文化振興事務費	010729	作成部課	教育委員会 文化振興課
補助金名	文化財保存事業補助金		作成者(内線)	文化財係長 原 裕司(77-22-464)

I. 事業の基本的事項(政策体系、目的)

まちづくり大綱	II	豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち	予算費目(会計)	01	一般会計	
中分類(施策)	II-4	歴史・文化の伝承と地域性豊かな文化の創造	予算費目(款)	10	教育費	
小分類(中施策)	II-4-3	地域に息づく自然と文化の再発見とその蓄積	予算費目(項)	05	社会教育費	
個別計画			頁	予算費目(目)	02	文化費
実施主体	補助【民間その他】		事業区分	市の条例・規則・告示に基づく事業		
目的	対象	国・県・市指定文化財の所有者等 国県市指定数 89件 補助対象指定数 75件 所有者等の数 126人	意図	地域や住民の共有財産である指定文化財を保護し、文化向上に資することを目的として、所有者等が行なう保存・継承事業を支援する。		
内容	概要: 指定文化財の所有者等に対する事業費補助 補助率等 ・保存事業: 国指定1/2又は国補助額の残額の1/3 県指定1/2又は県補助額の残額の1/2 市指定1/2 ・維持管理事業: 1/3又は除草その他の清掃にあつては1回1万円を2万円を限度					
開始年度	平成 19 年度	根拠法令・要綱等	浜田市文化財保存事業補助金交付要綱			

II. 事業コスト、活動指標

事業コスト	H18決算	H19決算	H20予算	活動指標(実績)	単位	H18	H19	H20目標	備考	
事業費(千円)		112	400	保存事業件数	件		0	5		
財源内訳	国県支支出金			維持管理事業件数	件		7	8		
	地方債									
	特定財源									
	一般財源		112			400				
職員数(人)		0.01	0.01							
人件費(千円)		59	59							
総事業費(千円)		171	459							

III. 事業の成果指標と目標値

成果指標	事業目的の成果を測る指標		単位	H18	H19	H20	長期目標等
	目標値	実績値					
保存事業の実施率 (補助件数/補助要望件数)	目標値				0	5	
	実績値				0		
	達成度				0%		
維持管理事業の実施率 (補助件数/補助要望件数)	目標値				7	8	
	実績値				7		
	達成度				100%		
【現状と課題】 事業開始からの 状況変化等	合併前の旧市町村には補助要綱が定められておらず、所有者等に管理経費の支給をする所と、していない所がある等、対応にバラツキがあったため、平成19年度から補助要綱を定め、その運用を開始したばかりである。そのため、制度の十分な認知と、指定文化財が所有者等にとっても貴重な財産として、経費を負担してでも、保存しようとする意識を持っていただけるように取り組んでいくことが必要な状況である。						

IV. 事業評価(1次評価・自己評価/2次評価・行政評価委員会)

1次評価	必要性	4	事業の「先進性・独自性」は高いものではないが、文化財を保存、継承する上で、未来に対する有効性はある。 事業の「明確化」については、事業対象及びその範囲が、多種の文化財の内容と個別の保存状況があり、詳細な基準作成は困難であるが、要綱の趣旨に基づく方針により確保している。
	有効性	4	
	公平性	4	
	妥当性	3	
2次評価	総合評価	A	・文化財を保存継承することは重要であり、必要性・妥当性がある ・関係者への周知が必要。